

# お薬のしおり

## 光線過敏症について No.138 (H25.8)

東京医科大学病院 薬剤部

今年は猛暑日が続いていますが、みなさんは紫外線対策をしていますか？紫外線による日焼けは、ある程度以上の紫外線量があたれば誰にでも起こりますが、もともとの皮膚の色によって起こりやすさには個人差があります。それとは別に、普通は反応を起こさないような紫外線量でも敏感に炎症を起こしてしまう光線過敏症という疾患があります。今回はこの光線過敏症の概要と予防、対策方法などについてご紹介したいと思います。

光線過敏症とは日光アレルギーとも呼ばれ、日光によって引き起こされる免疫反応のシステムです。症状としては、皮膚が赤くなる、ぶつぶつができる、腫れて水膨れができる、かゆみが生じるなどが挙げられます。光線過敏症の原因は、遺伝性、代謝の異常、アレルギー等様々ですが、なかでも頻度が高いのは、薬剤によるものとされています。

薬剤性の光線過敏症には以下の2つのタイプがあります。

- ① 光接触皮膚炎；ぬり薬や貼り薬の外用剤を用いた部位に日が当たってかぶれ、外用剤を貼っていた部分を中心にかぶれの症状が出るのが特徴です。
- ② 光線過敏型薬疹；内服薬を服用後に、日が当たった皮膚に発疹ができ、発疹ができる場所は露出部の広範囲にわたるのが特徴です。

それでは、どのような薬剤がこの光線過敏症を引き起こすのでしょうか？光線過敏症の原因となる薬剤は多くの種類があり、光線過敏症の発現頻度は、薬疹全体の約14%を占め、内服薬によるものの頻度が高いとされています。

光線過敏症を引き起こす報告のある薬剤の一例を以下に示します。

### 【原因薬剤】

| 薬剤の分類         | 薬剤名（商品名）      |
|---------------|---------------|
| ニューキノロン系抗生物質  | クラビット、スオード    |
| 非ステロイド系抗炎症鎮痛剤 | モーラステープ、ボルタレン |
| 脂質異常症治療剤      | リポバス          |
| 抗結核薬          | イスコチン         |



|         |             |
|---------|-------------|
| サルファ剤   | サラゾピリン      |
| 利尿剤     | ラシックス       |
| 抗がん剤    | ダカルバジン、オダイン |
| 抗ヒスタミン剤 | ゼスラン        |
| 向精神病薬   | ピレチア、ホリゾン   |

### 【光線過敏症の治療】

まず、薬剤の使用を中止後、患部を遮光し、約 1 週間は直射日光を避けるようにします。紫外線が患部にあると症状の増悪や再燃を繰り返すことがありますので、患部を直射日光やガラスを通した日光にもさらさないよう注意が必要です。次に、治療としては比較的強力なステロイド外用剤を塗布し、顔に近い部分にはマイルドなものを用います。また、かゆみが強い場合は抗ヒスタミン剤の投与を、さらに症状が強い場合は、ステロイド剤の内服や注射等を行うこともあります。症状がなくなった後も衣服やサポーターなどで紫外線から皮膚を守ることが重要です。場合によっては数ヶ月の間紫外線にあると症状が再燃することがあります。

### 【光線過敏症の予防】

光線過敏症の予防をするためには、衣服やサポーターなどを用いることは効果的ですが、サンスクリーン剤の使用も有効です。市販されているサンスクリーン剤のパッケージには「PA(UVA※1 を守る指標)」と「SPF(UVB※2 を守る指標)」が表示されています。一般的に、薬剤による光線過敏症は UVA で誘発されるため、PA の指標で選択をします。UVA の防止効果は 3 段階で表示されており、PA (+) から (+++) から適切なものを選びください。なお、サンスクリーン剤の一部には、オキシベンゾンを含むものがありますので、これらは避けてください。(※1：紫外線 A、※2：紫外線 B)

### 【日常生活での注意】

光線過敏症は薬剤によるものだけではなく、セロリ、クロレラ、ドクダミなどの食品や化粧品などによっても起きる可能性があります。また、上記で挙げた薬剤は一部であり、薬剤によって症状なども異なります。原因の分からない湿疹やかゆみなどの症状が現れた場合は、早めに受診をし、適切な診断や治療を受けることが大切です。

